

中国は今、空前のマイナースポーツ・アウトドアブーム

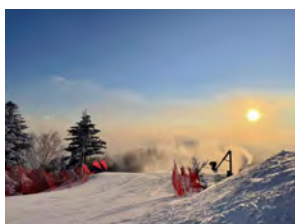
上海デスク 浅野 潤

2024年現在長年続いた右肩あがりの経済成長が落ち着き、大手不動産会社の経営危機により不動産バブルは崩壊、またマンション価格や株価も下がり、若者の失業率は過去に例がないほど上昇しています。このような環境の中で、今中国は空前のアウトドアライフのブームを迎えています。

1 変化する長期休暇の過ごし方（仮）

好景気が続いていた頃の中国人の長期休暇の過ごし方といえば、日本などの近隣国へ行き爆買い旅行をするというものでした。ところがこの不景気のため、特に若者富裕層の中では、海外爆買いというより国内における安価なアウトドアでのレクリエーションが、その主流となりつつあります。

以前の中国スポーツといえば、卓球やバドミントンをイメージされる方が多いかもしれません。ところが2008年の北京オリンピックを境に、テニスやゴルフも盛んになってきました。また2022年に開催された北京冬季オリンピックに際し、開催までにスキーやスノーボードなどのウィンタースポーツ人口を3億人にするという国家計画もありました。さらに2026年までに500場のスキー場がオープンする計画があるそうです。



吉林省吉林市にある北大湖スキー場



河北省張家口にある崇礼スキー場

2 拡大するアウトドア関連市場（仮）

昨年2023年10月に中国国家発展委員会から、中国の各省庁宛てに「促進户外运动设施建设与服务提升行动（アウトドアスポーツ施設建設とそのサービス向上のための行動を促進すること）」という通知がなされました。（※出典：中国国家发展改革委员会等部门关于印发）これによりスキーやスノーボードなどのウィンタースポーツだけでなく、登山やキャンプ、ロッククライミング、ウォーキング、クロスカントリー、ボルダリングなどのマイナーアウトドアスポーツ人口が爆発的に伸びています。

2023年に中国全土で新たに設立されたアウトドアスポーツ関連の企業は前年同期比約93%増の6万7000社となり、アウトドアスポーツ関連の産業計画によると、2025年までに産業の全体的規模が3兆元（1元は約20.6円、約61.8兆円）に達することが目標とされています。（※出典：人民網日本語版）

また前述のスポーツ以外にも、キャンプやバーベキューといったアウトドアライフを楽しむ過ごし方も増えてきました。他人との距離をとりつつ、自然を楽しみ癒しを求めるといったキャンプなどの屋外レクリエーションは、アフターコロナのこの時期に最も相応しい趣味だということで、これも爆発的に伸びています。



上海近郊のキャンプ場で楽しむ若者



続々と建設されるキャンプ場

例えばキャンプに欠かせないテントというアイテムの市場規模だけでも、2021年には27億元（540億円）だったものが、2026年には91億元（1820億円）になると予測されており、これだけを見てもまだまだこれからの市場といえます。（※出典：观研天下（中国露营帐篷行业发展趋势研究与未来投资分析））

3 おわりに（仮）

日本のアウトドアブームは1990年代前半に始まっており、日本の関連産業には十分な歴史と、技術や文化の蓄積があります。

現在の中国市場は経済成長が過去に比べるとかなり緩やかになっており、日本企業の新規参入余地は非常に少なくなっています。そんな中前述のマイナースポーツやアウトドア産業は数少ない成長産業と言えます。ユーザーも若くその伸び代にも期待できますので、日本の当該関連企業はぜひ着目のうえ、ビジネスチャンスとして取り組んで頂きたいと思えます。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。